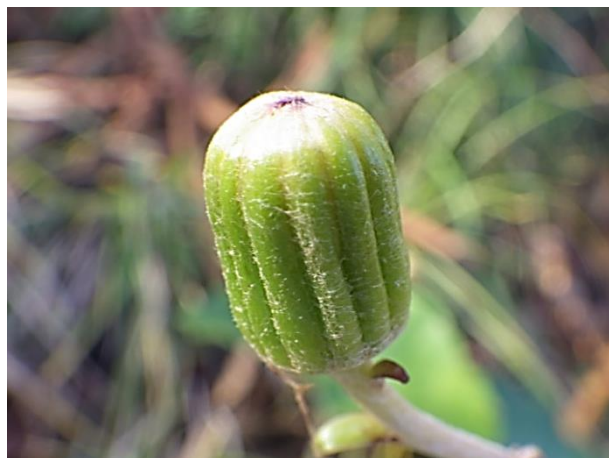


植物多様性センターの「ツワブキの花の構造」

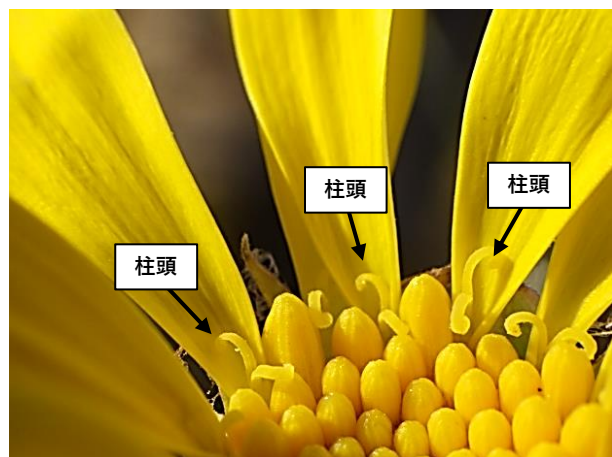
ツワブキは、舌状花と筒状花の2つの花からなる頭状花序をつける、典型的なキク科の植物です。花は外側から中心へと開きますが、開花初期には外側の舌状花の基部の柱頭が伸びて開きます。次に中心の筒状花が開花します。こちらは両性花で、葯筒から柱頭の伸長とともに多くの花粉を出します。ほかのキク科の野生種より花が大きく見やすいため、構造を観察するにはもってこいの植物です。



花：舌状花と筒状花からなる頭状花序を枝の先に咲かせる



蕾：総苞片が合着した円柱形の蕾をつける



舌状花：花冠の基部から柱頭を伸ばし2裂させる雌性花



筒状花：5裂した花冠から葯筒、さらに柱頭を伸ばす両性花